

製品名: PDZ-RhoGEF ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab15944**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300

分子量

抗原情報

遺伝子名	ARHGEF11
別名	ARHGEF11; KIAA0380; Rho guanine nucleotide exchange factor 11; PDZ-RhoGEF
遺伝子 ID	9826.0
SwissProt ID	O15085
免疫原	抗血清はヒト ARHGEF11 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 198-247

背景

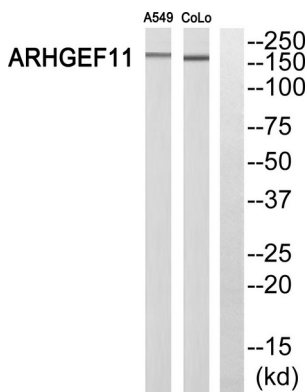
Rho GTPase は、G タンパク質共役受容体を介して作用する細胞外刺激によって開始される数多くの細胞プロセスにおいて、基本的な役割を果たします。コードされているタンパク質は G タンパク質と複合体を形成し、Rho 依存性シグナルを刺激する可能性があります。

す。ラットの類似タンパク質はグルタミン酸トランスポーター EAAT4 と相互作用し、そのグルタミン酸輸送活性を調節します。ラットのタンパク質の発現はアクチン細胞骨格の再編成を誘導し、過剰発現は膜の波打ちおよび糸状仮足の形成を誘導します。異なるアイソフォームをコードする 2 つの代替転写産物が記載されています。[RefSeq 提供、2008 年 7 月],ドメイン: ポリプロテイン領域は、刺激を受けた際の細胞膜局在に不可欠です。機能: グアニンヌクレオチド結合 α -12 (GNA12) および α -13 (GNA13) による RhoA GTPase の調節に関与している可能性があります。RhoA GTPase のグアニンヌクレオチド交換因子 (GEF) として機能し、GNA12 および GNA13 の GTPase 活性化タンパク質 (GAP) として機能する可能性がある。類似性: DH (DBL 相同) ドメインを 1 つ含む。類似性: PDZ (DHR) ドメインを 1 つ含む。類似性: PH ドメインを 1 つ含む。類似性: RGSL (RGS 類似) ドメインを 1 つ含む。細胞内局在: 刺激により膜に移行する。サブユニット: RGS ドメインを介して GNA12 および GNA13 と相互作用する。RHOA、PLXNB1、および PLXNB2 と相互作用する。SLC1A6 と相互作用する。組織特異性: 普遍的に発現する。

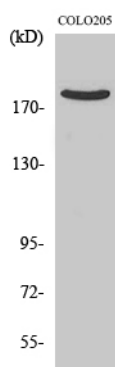
研究分野

アクチンダイナミクスの制御; AMPK

画像データ



ARHGEF11 抗体のウェスタンブロット解析。右レーンには ARHGEF11 ペプチドでブロッキングされている。



PDZ-RhoGEF ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析